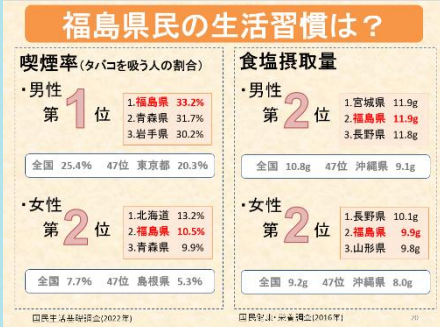



がん教育実施報告書

学校名	高倉小学校			
実施対象者 (学年・保護者など)	5・6年生			
教育課程の位置づけ	体育・保健体育	道徳	学級活動・HR活動	講演会・行事 その他()
実施日時	令和8年1月23日(金) 10:30~11:15			
打合せについて	【1回目】方法：電話	内容：事前アンケートと準備物		
	【2回目】方法：電話	内容：当日の確認		
外部講師 職・氏名	職名 北保健センター保健技師	氏名 鈴木里穂		
実施内容	テーマ：がんについて学ぼう			
	(1) がんの基礎知識と現状 がんが発生する原因や仕組み、がんの部位について説明を受けた。また、現代の日本では2人に1人ががんになるという現状を確認し、決して他人事ではない身近な病気であることを学んだ。			
	(2) 福島県の特徴とクイズによる学習 福島県における生活習慣の特徴や予防策について、クイズ形式で出題された。特に本県の課題である食生活や嗜好品に焦点を当て、楽しみながら正しく予防する方法を学んだ。早期発見・早期治療ができれば治る可能性が高い疾患であることへの理解を深めた。			
	(3) 食生活の改善(減塩)の実践的理解 講師が持参した実際のお菓子やカップラーメンのパッケージを確認し、裏面の「食品成分表」の見方を教わった。			
	(4) がん患者の心情理解と自分たちにできること がん予防のために自分ができることとして、自分自身の生活習慣(を整えるだけでなく、家族に対しても「検診を勧める」といった声掛けができることを教わった。			
 <p>福島県民の生活習慣は？</p> <p>喫煙率(タバコを吸う人の割合)</p> <p>・男性 第1位</p> <p>1. 福島県 33.2%</p> <p>2. 青森県 31.7%</p> <p>3. 岩手県 30.2%</p> <p>全国 25.4% 47位 東京都 20.3%</p> <p>・女性 第2位</p> <p>1. 北海道 13.2%</p> <p>2. 福島県 10.5%</p> <p>3. 青森県 9.9%</p> <p>全国 7.7% 47位 鳥取県 5.3%</p> <p>食塩摂取量</p> <p>・男性 第2位</p> <p>1. 宮城県 11.9g</p> <p>2. 福島県 11.9g</p> <p>3. 長野県 11.8g</p> <p>全国 10.8g 47位 沖縄県 9.1g</p> <p>・女性 第2位</p> <p>1. 長野県 10.1g</p> <p>2. 福島県 9.9g</p> <p>3. 山形県 9.8g</p> <p>全国 9.2g 47位 沖縄県 8.0g</p> <p>資料元: 厚生労働省(2022年) 資料元: 厚生労働省(2016年)</p>				

成 果 等

【児童の感想】

- ・がんは2人に1人になることがとてもびっくりした。早く見つけることができたなら早く治すことができたり、運動や食生活を気をつけることでがんを防げることが分かった。生活を見直したいと思う。
- ・今でもがんが生まれていると思うと、注意しないといけないと思った。
- ・がんは自分でも予防できる病気だということを知ったし、早く見つけたら早く治せると聞いてすごいなと思った。話を聞いてたばこやお酒、しょっぱいものなどはさけるようにしたいと思った。
- ・がんはこわいものだなと思ったけど、話を聞いたら予防できると知ってとても安心した。がんに関心しながら健康にいたい。
- ・がんは身近で特別な病気ではない。がんは早くみつけることができたなら、治ると分かった。
- ・がんじゃなくても親や先生に具合が悪いですと言いたいと思う。大人になったらお酒をほどほどにします。
- ・がんは身近な病気だけど、予防はできるのでこれから意識してがんにならないようにしたい。
- ・がんになると治らないと思っていたけど治せると分かった。
- ・がんは身近な病気なので、大人になったらがん検診をしたいと思った。

【良かった点】

当初、児童の多くは「がんは一度かかると治らない恐ろしい病気」という漠然とした不安を抱いていた。しかし、講習を通して、早期発見によって治癒の可能性が高まることや、日々の生活習慣によって予防が可能であることを正しく理解できた。がんに対する過度な恐怖心が前向きな予防意識へと変化したことは、本教育を実施した大きな成果と言える。